



第5回全国少林寺拳法指導者研修会

第5回全国少林寺拳法指導者研修会〔主催＝日本武道館・少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁〕が、平成29年9月16～18日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、講師・助講師8名、参加者79名が集まって行われた。本研修会は平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で少林寺拳法を指導する中学・高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した少林寺拳法の理論と実技の研修会を実施し、専門的な知識・技術・指導法の充実を図って全国的な少林寺拳法指導者の養成と資質向上を目的としている。

■ 1日目（9月16日）



川島一浩 会長

開講式の主催者挨拶では最初に、川島一浩少林寺拳法連盟会長が挨拶に立ち「本研修会は全国各地の指導者の資質向上を目指し、今年で5回目の開催となります。受講生の皆さんには、本研修会で様々な技、教

開講式の主催者挨拶では最初に、川島一浩少林寺拳法連盟会長が挨拶に立ち「本研修会は全国各地の指導者の資質向上を目指し、今年で5回目の開催となります。受講生の皆さんには、本研修会で様々な技、教

をしっかりと学んでいただき、3

日間の充実したものとなるよう、がんばってくださ

いと述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立ち「中学校武道必修化第1期は6年目に入り、内容の充実が求められる時期となりました。また、次期学習指導要領では現代武道9種目の並列明記



三藤芳生
常任理事・事務局長

が今年3月末に告示されました。ますます武道の必修化に期待が高まっています。日本武道協議会では設立40周年の記念事業として『中学校武道必修化指導書（DVD付）』を作成・刊行し、全国の中学校、都道府県市区町村教育委員会などに1万5千巻強を無償配布しました。少林寺拳法は実施校がまだ少ないですが、これから伸びていくと思います。本研修会で少林寺拳法の素晴らしさを再確認し、広く伝えていきたい」と述べた。

開講式後、立木幸敏特別講師による「現場における心得～安心安全な指導法～」の講義が行われた。



立木特別講師による講義 I

熱中症の4つの病態①熱失神、②熱けいれん、③熱疲労、④熱射病について、具体的な症状や対処法をスライドで示しながら説明した。水分補給については水とともに塩分をしっかり摂ること、運動前に水分を摂る“事前飲水”の必要性を強調した。

また、脳しんとうについて、柔道・サッカーの動画などを交えながら「脳しんとうの疑い(頭を打っていても)がある場合は直ちに競技をやめさせ、医師の診断を受けさせること。また、時間が経つにつれ、重症化することがあるので一人にさせないようにする」など、具体的対処法を含め説明した。

その後、中学校武道必修化班と経験者班の二班に分かれ、実技研修を行った。中学校武道必修化班では中島正樹講師を中心に、谷聡士助講師がまず少林寺拳法の概要について説明し、合掌礼、結手立、座り方、立ち方などの礼法を完成・配布されたばかりの指導書に沿って実施した。



■ 2日目 (9月17日)

朝8時40分、大道場での鎮魂行後、昨日に引き続き二班に分かれて実技研修を行った。中学校武道必修化班では、中島講師の指導の下、基本諸法の構え(開足中段構、右中段構、左中段構)、突き(上段逆突、上段順突)、蹴り、受け(内受、上受、下受)を行った。また、対人技能として内受突、上受突を号令に合わせて行った。その後、天地拳第一系を一つひとつの動作確認をしながら行った。

続いて、川島一浩講師が「(一財)少林寺拳法連盟の使命と在り方」と題し、少林寺拳法連盟の近況報告、今後の展望などについて講演した。

午後からは位田隆久特別講師による「少林寺拳法教育は強育・共育・協育、そして今日育」の講義が行われた。「人、人、人。いい組織には、いいリーダーがいる。いいリーダーには自然と人が集まってくる。いい仲間に出会うことができ、いい少林寺拳法を教わることができる」「学校教育では、少林寺拳法を教えるのではなく、少林寺拳法で何を教えるのかが問



位田特別講師による講義Ⅲ

われるのである」。また、二宮尊徳の故事や論語の名句、和歌、百人一首、俳句の暗唱など、豊かな日本の言葉に触れる機会を子ども達に与える重要性を説いた。最後に「“chance、challenge、change” チャンスにチャレンジしてチェンジしてください」と結んだ。

その後、参加者全員を生徒役に、「天地拳第一系の相対演武」をテーマとし、未経験者・浅井一人受講者による模擬授業が行われ、二日間の成果を発表した。



模擬授業の様子

■ 3日目 (9月18日)

鎮魂行後、初日に行われた班別討議の内容を三班の代表者がそれぞれ発表し、川島講師が講評をした。

休憩後、中島講師による「効果的な授業方法について」の講義が行われた。「新学習指導要領でも示されている通り、今後は主体的・対話的な深い学びが求められる。生きる力を育むため、『何のために学ぶのか』という学習意義を共有し、明確化することが重要になってくる」と説明した。

閉講式では、修了証を吉野喜信日本武道館振興部長が参加者代表の浅井一人東京都板橋区立志村第三中学校教諭に授与し、講師講評を中島正樹講師が、主催者挨拶を川島一浩少林寺拳法連盟会長がそれぞれ行い、全日程を終了した。